

平成30年度萬鉄五郎運営委員会会議録

1 開催日時

平成31年3月19日（火） 午後3時～午後4時50分

2 開催場所

花巻市東和町土沢5区135番地 八丁土蔵

3 出席者

(1) 出席委員9名

平野広委員長、門馬優子副委員長、杉本吉武委員、斎藤純委員

小笠原卓雄委員、佐藤牧子委員、菊池房江委員、菊池忠久委員、菅沼緑委員

(2) 欠席委員1名

菊池正樹委員

事務局4名（萬鉄五郎記念美術館）

中村館長、藤原副館長兼生涯学習課長、平澤主任主査、滝浦主査

4 会議の概要

(1) 開会 藤原副館長

(2) あいさつ 平野運営委員長 中村館長

(3) 委員および出席職員の紹介

議 事

① 平成30年度事業報告について

平澤主任主査、滝浦主査：資料説明

(小笠原卓雄委員)

企画展については年4回特徴ある展示でおもしろかったと思う。岩合展は結構人が入ったので、美術館に親しむ意味で有意義だったと感じる。美術館サポート組織と関連事業を一緒にやっていけば、美術館の負担も少なくてできると思うので検討してはどうか。

(杉本吉武委員)

ドイツのデュッセルドルフミュージアムグローバルへの貸出しがあったが、萬を指定してきたとのことなので、海外でも萬の評価が高い証。日報に記事は見えないが、ドイツ在住の岩手県人を書いてもらうとか写真をもらうとかすれば良かった。平澤さんが行けば良かったが。

(斎藤純委員)

県立美術館でも以前パリに萬作品を貸したが報道されなかった。もっとアピールすれば

良かった。

(杉本吉武委員)

中にいる人は気づかない。1年間展覧会で萬はいろんなことをやってきた。当時の写真と組みあわせてやるなど、まだまだ展覧会の可能性が広がる。コラボで誘客集客できれば面白い。パッと見て萬だとわかることも大切。

(佐藤牧子委員)

収蔵庫の状況も知りたい。あと県の美術展の巡回展を冬場でもいいのでできないか。戦後市内で活動している方の展示会をしてもらえないかという話も所属の会員から出た。

(平澤主任主査)

県の美術展の巡回は、当館開館したあたりに約5、6年やっていた。初めはお客さんが来たが、だんだん来なくなった。これは巡回会場が増えたため、花巻や北上、水沢で巡回すると、何も萬にこなくても鑑賞できる。また今の作品は大きいので作業が大変。1週間で展示してすぐ撤収、それで2週間はつぶれてしまう。

(佐藤牧子委員)

石鳥谷の会場など使ってもいいと思うが、美術館でやってもらうのが1番いい、という話が会員の中で出たので提案した。あと土沢全体が芸術の町だと思うので、この館山公園に今回展示した照井榮さんの彫刻を置くとかできないか。健康志向で歩く方も多いで、こちらに足を向ける人も増えると思う。

(平澤主任主査)

照井さんの作品(石彫)は色がついていない作品は屋外でもおけると思うが、色のついていない作品は全部北上市から借用した作品なので難しい。彫刻を置くのもいいと思うが、そこまでできないのが現状。

(菊池房江委員)

収蔵庫の件、空調など予算もかかるので大事な課題だと思う。小さいころから美術館に親しむ意味で岩合さんの展覧会は家族でも訪れることができたので良かった。猫の形のブックマークになる入場券など、たくさんの人に楽しんでもらったと思う。美術館は特別なところじゃなくて親子や家族で訪れる場所であつたらいいと思っている。まなびキャンパスカードの利用者も多く、学校も巻き込んだ形でよいと思う。ペアチケットとかもあるといい。収蔵庫も予算がない中で難しいとは思いますが、先ほど話のあつた屋外の展示などもあればいいと思う。

(菅沼緑委員)

美術館の役割は色々あるが娯楽施設ではない。文化の質を深める施設だと私は思う。かつては美術館から出版物が図録のほかにも出ていたが、今は難しいと思うが萬鉄五郎をとおして文化の質を深めるような活動がさらに広がるといいと思う。

(菊池忠久委員)

入館者数から見ると16,000人は例年から言うとかかなり努力されていると思う。色々な企画で集客し非常に良かったと思う。土澤アートクラフトフェアの入場者108,000人となっているが、正確に数えた数字でしょうか。企画展の数字も年度をまたぐ場合の数字などわかりづらいので誤解のないような表記をお願いしたい。収蔵庫関係では将来の美

術館としての在り方を検討しているということ、差支えなければ状況をお知らせください。

(平澤主任主査)

土澤アートクラフトフェアの人数は、実行委員会で数えたもの。当館は公立美術館として、萬を中心に岩手との関わり、近代現代についての展覧会、それに伴う作品収集を基本方針でやってきました。これが正しいのか、このまま進めていいか、改めて今検討しているところ。例えば岩手県立美術館とも同じようなことが重複されるし、コレクションも似た感じになる。住み分けるべきかどうかも含めて再検討する必要がある。ただ、こちらの方が歴史があるので作品もうちにあるものもある。今本館で開催している「高橋忠弥の世界展」は当館所蔵品だけで構成し十分高橋忠弥が語れる展覧会になっている。主要な人はまとまった数を持っているが、それが必要なか多方面からの再検討しているところ。美術館も35年になるので次のステップはどうしたらいいのか、先ほど話のあった公園に彫刻を置く案なども含めて検討を重ねているというところ。

(斎藤純委員)

岩合さんは入ると思っていたので、たくさん入ってよかった。照井榮展もよく入ったと思う。この美術館は歴史がありそれが強いと思う。石神の丘でやったとしたら、この半分くらいかと思う。公園に彫刻という件だが、石神の丘美術館は彫刻の美術館としてスタートしているので、野外展示がどれだけ大変かということを理解している。彫刻は一度設置すると動かすのがすごく難しいので、慎重にやらなくちゃいけない。

(菊池房江委員)

山梨県の中富工芸美術館の館長が陶芸家で美術館がほしいと思って運動していたそうだが、自分で作った焼き物を道端において子どもたちに見たり触ったりそういう環境の中で育ってもらって、子どもたちが大きくなって大学終わって帰ってきたときに自分の育った町に慣れ親しんだ素晴らしい作品がその美術館で企画展をしたり収蔵したりしているので、小さい時からそういうものに慣れ親しんでいくものがあつたらいいなと思う。お金はかかるとは思いますが種をまいておくことが大切だと思う。

(斎藤純委員)

種まきの意味では、小中学生学校単位での見学も大切。岩手町の場合は岩手町の小中学校は全部1年に1度必ず石上の丘美術館に来ることになっている。それができるのは小さい町だからだが、花巻市でやるとしたら賢治記念館になるのか。

(藤原副館長)

昨年9月議会においても同様の質問があった。市内にはたくさんの顕彰施設があるので学校の社会科見学等に取り入れていただくよう市内小中学校に要望している。

(菊池房江委員)

バスを出してもらえなど見学するための予算をとってもらえれば学校としても取り組みやすいと思う。

(門馬優子委員)

今子供の見学の話が出たが、東和中学校生が一度も美術館に来ないで3年間過ごしてしまう悲しい現実がある。バスなくても歩いてくればすぐ、これはお願いというよりも地

元なんだから、萬鉄五郎のこと何も知らないまま、よその地にいってしまうことぐらいもつたいないことはないので、これはぜひ地元から始めていきたいと思う。みんなで声を上げたいと思う。それからあの鉄五郎の肖像画展は地元ならではの作品で、キュビズムの作品が有名だが、生活のために書いた肖像画は、萬の人となりを知ることができる、やはりこの美術館だと思う。これからも萬のいろんな面に焦点を当てた展覧会になることを期待している。岩合さんは思ったよりたくさん来てくださりうれしい限り、有線を通して猫をかわいがっている方から写真を集めた。猫好きな方はたくさんいるので、自宅のかわいい猫たちの写真がずいぶん集まり、それも展示したので猫好きの人たちが足を運んだと思う。館側の工夫があって良かったと思う。展示会も特に親子連れが来そうなものは工夫して人を集めるために知恵を絞って、面白さを倍増するような企画が必要だと思う。

中村館長から平野委員長に諮問書を手渡す

② 平成31年度事業実施計画について

平澤主任主査、滝浦主査：資料説明

(斎藤純委員)

モンタン展楽しみだが、館長は詳しいと思うが資料はあるのか。

(平澤主任主査)

まず関係者にあたって聞き取り調査から始める。中村館長も詳しいが、モンタン賞で選ばれた人たちもあるので、その方々にあたりたいと考えている。

(菅沼緑委員)

先ほど言ったようなことが私としては一番の望み。

(平野委員長)

その点菅沼さんは自分で活動されているし「まちてくギャラリー」の印刷とか実践されているので、これについても美術館と連携してお願いしたいと思う。

(菊池房江委員)

開館35周年記念展は、地域の方はじめ皆さんにこの館の素晴らしさを認識いただける機会だと思うので、子どもたちとか親子で来ることができるように、いい形をつくってほしい。他も素晴らしい企画が並んでるので期待している。

(佐藤牧子委員)

モンタン展が、戦後の絵を描く人たちに焦点をあてたもので、私が希望していたのと合致してよかったと思っている。先ほどの彫刻の件については素人考えだったが難しいことは理解した。収蔵庫も今年度中に方向が決まるのか。あと県展の巡回展のも状況がわかり納得できた。

(平澤主任主査)

普通に収蔵庫を作ると費用が億単位になってしまう。それは難しいのである程度の空調で保存できるものもあり再検討しているところ。

(杉本吉武委員)

来年内村幸助展とモンタン展、この年代の同じような人たちに光を当てる、こういう企画は盛岡からもお客さんが来ると思う。今回内村幸助さんや小瀬川了平さんを知っている人、存命の方とかいると思うので、今やるというのに意味があると思う。収蔵庫は、例えばここの分館みたいにして作品を期間限定で収蔵庫を見せるとか、あえてそういう「見せる」企画も面白いと思う。

(小笠原卓雄委員)

重複するが、企画展については面白いものを考えたなど期待している。展示の時の関連事業もここに集まった人たちもいらっしゃるので来ていただいてモンタンを語るというような座談会のようなものをやると盛り上がるのではないか。かつて若者のエネルギーが集まった場所なので。それから美術館はだいたい写真撮影禁止になっているが、場所によっては、ここはいいですよ、とコーナーを決めて写真を許可しているところもある。今若い人はスマホですぐ撮影してコミュニケーションとるので、考慮してくれればと思う。

(平澤主任主査)

今展示しているのは美術館・土蔵とも撮影可能。展示会ごとに作家の意向と著作権の関係を確認している。

(門馬優子委員)

平成が終わる年に、一気に昭和の香りがする楽しみな展示だなと思う。杉本委員の収蔵庫の話もいいと思う。それから「農旅」を東和中心にやっているの、その昔の金物屋さんの古い店舗利用して活動している団体があるが、そこを美術館のサテライトみたいにして、そこを大いに利用して美術館の広告にも使っていけないか。それからハイビジョンソフトは利用されていないので、例えば各振興センター会議とかに話題提供するのは大事だと思う。美術はやっぱり一般的に敷居が高くて、取り組みにくいと思うが、ハイビジョンの映像で「萬さんてこんな人だったのか」と理解できるので、一人でも多くの人に知ってもらえることは大事だと思う。

(平野委員長)

皆様からいい意見がたくさんありましたので、検討していただけるようお願いいたします。

《意見集約・平野会長》

・諮問第1号の内容について、当運営委員会は原案を可とする意見とすることに異議がないか諮り、満場で原案通り答申することに決定。提案された意見等は、整理の上付帯意見として答申書に記載する。

⑤閉会 藤原副館長 16時50分閉会